

<様式1>

令和2年度 さいたま市立宮前中学校 自己評価書

校長 大木 克己 印

1 学校で設定した「令和2年度の目標」及び関係する「評価項目」について

- (1) 昨年度の研究発表の課題をもとにして「主体的・対話的で深い学び」の継続研究と「ICTを効果的に活用した魅力ある授業」を中心とした校内研修を実施する。
➡ 各教科等の授業の状況
- (2) 宮前中学校いじめ防止基本方針に基づいた、いじめの早期発見、解消に向けた取り組みを実施する。 ➡ アンケートの実施、面談、早期対応
- (3) 不登校生徒の解消を目指し、教育相談を組織的に実施する。
➡ さわやか相談室、SC、並び関係機関との連携（北教育相談室、あいばれっと教育相談室等）
- (4) よい授業の4つの因子を踏まえた授業展開 ➡ 市学習状況調査、アンケート
- (5) 勤務時間の把握・業務改善を実施する。 ➡ タイムカード、面談、アンケート

2 評価結果について

- (1) 教科指導における調査項目において、肯定的な回答が90%を超えている。また、学校課題に即した研究授業を全教員が実施できた。
- (2) 生徒指導、教育相談に関する各調査項目において、肯定的な回答が90%を超えている。昨年度課題であった「学年間の情報共有」の項目で改善が見られた。生徒会活動などを通して「いじめを許さない環境」ができています。
- (3) 教育相談部会を中心として、不登校生徒の相談・指導を組織的に行う事ができています。関係機関の協力も得て、相談業務や定期的な家庭訪問が行えている。一方、家庭の問題で学校や関係機関と連携の取りにくい生徒の存在が課題である。
- (4) 市学習状況調査では、市平均を若干下回っている。よい授業のアンケートでは、各因子で良好な結果が見られる。
- (5) ノー残業デーを設定したり、業務内容を改善したりすることで時間外在校時間が明確に減少した。部活動運営方法や時間外の生徒指導・教育相談対応に課題が残る。

3 次年度に向けた具体的な改善策について

- (1) 一人一台のPCが設置されるので、校内研修を通して、ICTを効果的に活用した授業作りに継続して取り組んでいく。
- (2) いじめの未然防止、早期発見、早期対応に向けて、各種アンケートや生徒指導・教育相談活動をいっそう充実させる。
- (3) 教育相談体制を充実させ、不登校生徒の解消にむけて個別最適な支援が行えるように努める。
- (4) 来年度も授業公開を積極的に実施し、管理職の指導・助言や相互授業参観を通して、教員の指導力向上を図る。
- (5) 教育課程検討委員会を通して、学校行事や地域催事への参加等について更に業務内容の改善を図り、教職員の負担軽減に努める。